



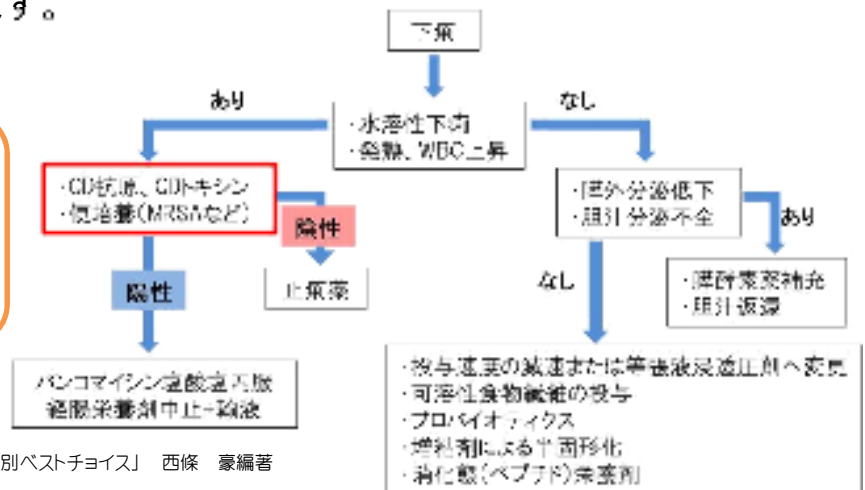
NST勉強会アンケート報告

11月15日のNST勉強会に大阪労災病院栄養管理部西條先生をお招きし、当日は120名の職員の参加となりました。



アンケートには多くの方にご回答頂きました。回答者の4割が「栄養管理について、日々の業務で疑問に感じていること、苦労していることがある」と回答、自由記述には下痢時の対応についての悩みやご意見が多かったため**経腸栄養時の下痢対策についてのアルゴリズム**を掲載します。

下痢の定義：排便回数3回/日、糞便中の水分が200ml/日以上、糞便重量が200g/日以上



*ニュートリションケア2019年冬増刊号
「選択と変更のタイミングが奨励でわかる！経腸栄養剤の病態別ベストチョイス」 西條 豪編著

当院の対応としては・・・

減速	100ml/h以下に投与速度を減速する際は注入ポンプの使用もご相談下さい。
等張浸透圧剤	MA-ラクフィア1.0が該当。
可溶性食物繊維の投与	有効性が認められた投与量は20～30g/日であり採用の栄養剤のみからの投与は難しいです。
プロバイオティクス	MA-ラクフィア1.0にはシールド乳酸菌が配合されています。
半固形化	半固形栄養剤のハイネゼリーや胃内でゲル化するハイネイーゲルが該当。
消化態(ペプチド)栄養剤	ハイネイーゲルが該当。

患者様によってどの対応が優先されるべきかが異なります。
対応が必要な場合は病棟担当またはNST専任栄養士にご相談ください。

NSTへのお問い合わせは栄養管理部またはリンクナースへ
(栄養管理部PHS：913・970)